65期

古希記念同期会を 東京で開催

「人生七十古来稀なり」とか。そんな実感ないなぁと言いながら、古希を祝う同期会を9月15日（土）、日本教育会館（千代田区）で開催しました。

今回は関東65期の主催です。65期に合わせたのか出席者も65名、内訳は関東勢38名、地元上田や各地（大阪、秋田やはるばるインド）から27名でした。欠席の理由はいろいろですが、健康上の事情で出席できないというのが気がかりです。

会場正面には同期のデザイナーによる特製横断幕とグリーンの記念ポスターが、雰囲気をより豪華に盛り上げてくれます。

全員で記念撮影

14時頃には次々と集まり始め、15時過ぎに開宴し、宴たけなわのところで1組から11組までクラス別に登壇、全員一言スピーチを披露するが、お酒も入って賑やかな中、残念ながら話はほとんど聞こえない状態でした。ワイワイやっているうちにあっという間に予定の時間。最後は全員集合の記念撮影。

最後に地元代表から「2年後、母校創立120周年に合わせ、上田で同期会の予定」と伝えられました。2年後と言えば2020東京オリンピック。我ら65期が高校入学したのは1964東京オリンピックの年、休み時間にテレビ観戦した記憶があります。

これから2年後、次回上田での再会を約束しました。

宮原豊（65期）

北国街道の旅（第4報）
出雲崎でゴール到達

良寛堂の前で

2018年は豪雪が溶けた4月21日から始まった。妙高高原駅から歩いて田切宿、二俣宿、関山宿、松崎宿、二本木宿、新井宿まで。宿場は豪雪対応の家に建て替わっていて、かつての面影はない。雪が残る妙高山を眺めながらの旅であった。

5月は高田宿の雁木通りを歩き、高田城跡を見学して春日新田宿まで。7月からは日本海沿いに黒井宿、潟町宿、柿崎宿、鉢崎宿まで。

9月は中越沖地震の被害が残る地域。青海川駅から鯨波宿、柏崎宿。原発をバスで迂回して宮川宿へ。鈍色の日本海を見ながら街道を歩いて椎谷宿、石地宿に来たところで暴風雨に遭いバス停の小屋に避難。タクシーで出雲崎宿へ到達した。雨が小降りになってから代官所跡、光照寺（良寛剃髪の寺）、金銀御用小路、芭蕉園、良寛堂を見ながら、妻入りの民家が約800軒、4キロ近く続く町並みを散策した。

出雲崎の沖合50キロに佐渡島が横たわる。あいにくの悪天候で島影がかすかに見えるのみだった。良寛堂は良寛の生家橘屋跡に建つ。安田靱彦が設計し、良寛の母の故郷佐渡を背景に日本海に浮かぶようだ。堂の裏側には良寛像が座している。

北国街道の旅は終わり。次は御金荷の道の出発地、佐渡金山を予定している。

清水計枝（64期）

15人出席し小講演
理科系班OB会

上田高校理科系班OB会は8月26日、大庄水産水道橋店で行われ、15人が参加した。最初に旧第一製薬に勤務された窪田実さん（64期）が「これからの医薬品研究開発」について小講演をした。

店内で

新しい健康・医療のアプローチは健康寿命をどうやって伸ばすか、そのための医療品開発である。開発には長い年月がかかる。国が司令塔となり、産官学連携をけん引することが必要だなど。

初参加は宮原清明さん（58期）、尾和剛一さん（59期）、渡邊温子さん（72期）、小宮山伸之さん（74期）。最近は理科系だけでなく無所属の方も参加されます。興味のある方は、お気軽に参加してください。

石井則男（64期）